

(様式第2号 道民意見提出手続の意見募集結果)

「北海道病院事業改革推進プラン」(素案)についての意見募集結果

令和3年(2021年) 月 日

「北海道病院事業改革推進プラン」(素案)について、道民意見提出手続により、道民の皆様からご意見を募集したところ、14人から延べ56件のご意見が寄せられました。

ご意見の要旨及びご意見に対する道立病院局の考え方については、次のとおりです。

I 基本的事項(4件)

意見の概要	意見に対する道立病院局の考え方
総合計画とSDGsをミックスさせた素晴らしいプランであり、地域医療連携推進法人の活用なども触れて、とても先進的な内容です。	素案に賛同するご意見として承りました。 B
公共性をうたうのであれば、競争原理は排除されるべきものであり、効率化の名の下に受けられるべき医療に支障を来すことがあってはならない。公立病院の統合・廃止に向けた政府の動きに連動した一連の中身ではあると思うが、道行政が道民の命を守る視点・健康を守る視点を欠いた国の施策に励行するような動きは排除されるべきと考えます。	道立病院が、地域において求められる役割や機能を将来にわたって発揮していくため、限られた医療資源を有効に活用しながら、地域の医療機関との機能分担や連携を図ることが重要と考えており、今後とも地域医療構想調整会議の場などを活用し、地元自治体や医療機関等と協議を進め、地域全体で必要な医療提供体制を確保してまいります。 C
現在の社会とは不一致な政策であり、SDGsに謳われている「誰一人取り残さない」社会を構築すべき。	本プランは、「北海道総合計画」の特定分野別計画であり、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に資するものです。 C
「住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療と介護の連携も十分考慮しながら、地域のニーズに適切に応えていく必要があります」との記載はその通りだと思います。 SDGsの「誰一人取り残さない」社会の実現めざす、とりわけ、目標3のターゲット「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し福祉を促進する」が重要だと思います。	素案に賛同するご意見として承りました。 B

II 道立病院の現状と課題(10件)

意見の概要	意見に対する道立病院局の考え方
コロナ禍において、非常に厳しい経営実態であることは容易に想像できる。機能分業は地域での密な連携が必要な部分ではあるし、そのことが重要な観点だとは思いますが、医療機関がその地域に無い、または診療科が減るなどのことでの「人口減少」の視点を欠いているのではないかと。	本プランは、人口減少が急速に進行する中、新型コロナウイルス感染症の影響も加わり、患者数や収益が減少するなど、道立病院を取り巻く環境がこれまで以上に厳しさを増していることを踏まえつつ、道立病院が今後とも地域で必要とされる医療を提供していくために必要な経営改善を進めることを趣旨として策定するものであり、素案どおりとします。 D
江差病院の精神科について、地域ニーズに合わせた診療体制の確保が必要と記載されていますが、まさにその通りだと思います。この地域には認知症の専門医もいないことから、経営面からも認知症に対応できる医師を配置すべき。	いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。 C

<p>江差病院の消化器内科医師の常勤確保を重要課題として早急に行うべきと思います。函館まで車で行く負担は大きく、検診事業の充実を考えるならば内視鏡がいつでもできる体制は必須と考えます。収益改善の一つとしても有益です。</p> <p style="text-align: right;">【同趣旨の意見 ほか1件】</p>	<p>江差病院の消化器内科など、常勤医師が欠員となっている診療科に係る医師の確保に向けて、道内3医科大学に対する要請や、道外勤務医師に対する募集活動などに取り組んでまいります。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>コロナ対策について、人員を増員して対応していくのが筋であり、文面だけで終わっているのは問題。昼夜を問わず医療従事者への負担が多大であり、極限状態で心身の疲労を持って仕事をしている。</p>	<p>各道立病院においては、それぞれの病院の役割や機能に応じて、新型コロナウイルスなど感染症対策を進める中で、医師等医療従事者の負担軽減に向けて取り組んでおり、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>人口が減る傾向ですが、北海道全体では、比較的医療が必要で、自前で病院への移動する手段が不足がちな高齢者は減りません。病院のある地域で違いがあるものの、その点を留意した計画にしてほしい。</p>	<p>本プランは道立病院の経営改善を進めるために策定するものであり、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>適切な診療報酬の対応は必要だと思うが、点数の高い診療報酬は、職員の仕事量増や人員増に繋がる。また、患者にとっては、一部負担金の増加や入院期間の短縮など必要な医療が受けられなくなる可能性もある。その点を充分留意してください。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>収入増の基本は患者数の確保だと思います。そのためには、住民にとって必要な診療科の開設・充実とともに患者が受診しやすくなるしくみも必要だと思います。</p> <p>特に、低所得の方には入院時の食事代などの軽減が必要です。国保や後期高齢者医療の一部負担金減免をはじめ現在ある医療費助成などの制度の周知や勧奨も必要だと思います。また、医療機関への移動方法や費用の改善も必要だと思います。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>現プランに対する評価がない中、全く具体性がないものになっていると感じます。記載されている内容は、この5年間の取組で十分評価できた内容であり、さらに一步進めた内容でなければ今後の5年間が無駄になります。具体性のあるプランの再考を求めます。</p>	<p>道立病院事業の推進に当たっては、北海道病院事業条例に基づき、医療や病院経営、企業経営に関する有識者の方々と構成する「北海道病院事業推進委員会」を設置し、幅広い見地から客観的な点検と評価を受けながら、プランに掲げた目標達成に向け、経営改善に取り組んでいます。また、次期プランの策定に当たっては、この委員会に設置した「改革推進プラン検討部会」のご意見を伺うとともに、各病院の院長等の参画も得ながら素案を取りまとめております。</p> <p style="text-align: right;">D</p>
<p>南檜山圏域の医療は、不採算と言われながらも江差病院が先頭に立ち、最低限の医療体制を整えるために、住民に病院の実情を知ってもらい、地域の信頼と協力を受けながら進めることが必要。具体案としては、特手当など給料を引き上げ江差病院が他病院よりも勤めることが良い状況を作ることが最善と思います。</p>	<p>地域事情や職種ごとの業務内容に応じた手当等の導入については、他の医療機関の実態等を踏まえ検討を進めることとしており、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>

Ⅲ 道立病院が果たすべき役割・機能（21件）

意見の概要	意見に対する道立病院局の考え方
<p>コロナ禍ですので、医療機関を受診しなかった層が「薬局」を利用しているため、薬局との連携強化やオンライン診療への取組について触れてほしかった。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>さらなる拡充に向けた施策が必要。コロナ禍での医療・介護の、特に地域での疲弊した状態は認識できるはず。コロナ禍が去ったとしても新たなウイルスの出現にも備えた地域での医療・介護の充実は道行政が率先して取り組むべき課題だと考える。</p>	<p>各道立病院においては、それぞれの病院の役割や機能に応じて、新型コロナウイルスなど感染症対策を進めており、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>緑ヶ丘病院の今後の方向性の中で、小児の関わり方が不十分でこの文面では何をしたいのか分からない。各方面や学校(幼児、小・中・高等)との関わりや連携が取れる組織改革を行い、困っている家族・親への支援方法を掲げ職員の増員を望む。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>昨年から発生した新型コロナウイルス感染症への方向性がどうなるか、国をはじめ地方も対策が決まっておらず、クラスター発生の対応が不十分。人員削減で入院医療の確保を図るのは困難。</p>	<p>各道立病院においては、それぞれの病院の役割や機能に応じて、新型コロナウイルスなど感染症対策を進めており、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>現在の診療報酬上、不採算になる救急医療、小児科、精神科をはじめ、新型コロナウイルス感染症や今後発生する感染対策、難病医療などを強化してほしい。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>新型コロナウイルス感染症が終息しません。また、今後あらたなウイルスが発生、感染が広がること予想されます。江差病院については、2次医療圏のセンター病院として日ごろから十分な病床数や職員体制、検査体制などを確保する必要があります。明確に計画を補強してほしい。</p>	<p>江差病院については、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関との連携の上、第二種感染症指定医療機関として、感染症病床での患者の受入れなど、地域の感染症対策の中心的な役割を担っており、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>江差病院について、休止している分娩をはじめ診療科の拡大を行ってほしい。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>江差病院が所在する地域での慢性期医療は、民間医療機関と国保病院が担っていますが、その病床数が減っています。「地域医療連携推進法人」内の国保病院の病床数の削減及び診療所化をしないでほしい。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p>国保病院の病床数などにつきましては、各設置自治体の判断によるところですが、圏域における医療需要の変化や地域医療構想調整会議における議論の状況を踏まえた対応が必要と考えます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>

<p>江差病院が、札幌医科大学の「地域医療研究教育センター」に医学・研究フィールドを提供することは画期的な取り組みであり、圏域のみならず北海道の地域医療のためにも推進いただきたい。初期臨床研修医や医学生の研究体制整備が記載されていますが、総合診療医の専攻医育成も是非対象にしていきたい。</p>	<p>本道における総合診療医の養成・確保に向けて、札幌医科大学が設置予定の「地域医療研究教育センター」に医学・研究フィールドを提供するとともに、札幌医科大学と連携を密にしながら、初期臨床研修医や医学生の研究体制の整備を進めることとしており、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p>	C
<p>江差病院の精神医療の記載について、地域のニーズ次第では精神科病棟の廃止の可能性も否定できないと言うことでしょうか。認知症を積極的に受け入れるなどの患者構成層を変化させていくとの意味でしょうか。</p>	<p>高齢化が進行する地域においては、今後とも認知症へのニーズはあるものと認識しています。限られた医療資源を効果的かつ効率的に活用しながら、必要な医療提供体制の確保に努める考えです。</p>	E
<p>羽幌病院の総合診療医育成の取り組みは大変すばらしいと思います。しかしながら「現状」以降の項目も含め、「羽幌病院が地域センター病院であること」を意味する記載がありません。一方で後段の「V 再編・ネットワーク化」では地域センター病院の記載がありますので、明確にした方がよいと思います。</p>	<p>羽幌病院については、総合診療を中心とした医療提供体制を確保し、高度医療機関や圏域内の他の地域センター病院等との連携・機能分担を図ることにより、地域センター病院としての役割を果たそうとするものです。</p>	D
<p>緑ヶ丘病院の「今後の方向性」の記載において、「十勝第三次医療圏における精神科救急医療の拠点としての機能を担います」とされていることは評価します。一方、「課題」にも記載のとおり、施設の老朽化が著しく現在の標準的な精神医療を提供する上でも問題だと思しますので、計画期間内に施設の建て替えをおこなうことを明確にした方が、地域で求められる病院づくりに向けた具体策についての地域議論が活発化されるのではないのでしょうか。</p>	<p>老朽化している現有施設のあり方について、今後の患者数の動向等を踏まえながら、病床の規模や患者の療育環境など、地域で求められる病院としての方向性を検討してまいります。</p>	C
<p>向陽ヶ丘病院の「今後の方向性」は、基本的に現行の機能の継続を記載されているのかと思いますが、一方で「地域から求められる病院機能について検討」とされています。精神医療については地域医療構想調整会議の対象ではないため、具体的な地域内議論の枠組みの明示を期待します。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。 精神科については地域医療構想の対象とはなっておりませんが、向陽ヶ丘病院については、地域連携室の活動の中で各関係機関との意見交換を重ね、円滑な地域連携に向けて取り組んでいるところです。</p>	C
<p>コドモックルの記載では、収支差が拡大している状況とありますが、経営改革の要素としてはDPCの可否についての言及程度。在宅支援や市町村に対する地域支援の強化の方向性が強調されており、過度に経済性は追求しない姿勢との印象を受けました。</p>	<p>小児に対する高度・専門医療機関であるコドモックルについては、在宅療養支援や新生児に対する医療機能を強化してきており、本道の医療ニーズを踏まえた良質な医療を提供できる体制を構築することでコドモックルのもつ機能をより一層発揮し、経営改善にも寄与することを目的としています。</p>	E
<p>緑ヶ丘病院の今後の方向性に、「新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、患者が発生した際には、保健所との連携の下、発生状況に応じた入院医療の確保を図ります」と記載されており、このことについては評価します。記載のとおり、自治体病院が責任ある立場であり、取り組むべき大きな課題だと思えます。しかしながら医療スタッフが不足しているのが現状ではないのでしょうか。保健所との連携も必要ですが、医療スタッフを確保し整えることも具体的に記載し、今後の方向性として示していくことが必要ではないのでしょうか。</p>	<p>道立病院が感染症対策を進めながら、医療を継続して提供していくため、引き続き、必要な医療従事者の確保に取り組んでまいります。</p>	C

<p>緑ヶ丘病院は、施設がかなり老朽化しており、今後のプランにおいて感染対策を考えた陰圧室などの施設・医療スタッフ確保等を含めて建物を設計・計画し、感染対策に関するシミュレーションの研修施設も視野にプランに書き込んで頂くと医療スタッフから注目され、地域住民として安心ができます。</p>	<p>老朽化している現有施設のあり方については、今後の患者数の動向等を踏まえながら、病床の規模や患者の療養環境など、地域で求められる病院としての方向性を検討していくこととしており、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p>	C
<p>緑ヶ丘病院の今後の方向性の中に、児童・思春期についての役割について言及されていません。セールスポイントである児童・思春期の強化は諦めたのでしょうか。医師の確保は困難な状況であることはわかります。それならば、その他の職種でカバーすることを考えてはいかがでしょうか。</p>	<p>緑ヶ丘病院における今後の方向性として、引き続き、児童・思春期精神科医療の機能を担うとともに、周辺の自治体や学校などと連携し、適切な医療を提供するよう努めることとしており、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p>	C
<p>緑ヶ丘病院について、『「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて、今後も患者の地域移行を進めるとともに、精神科デイケア、訪問看護等の在宅患者支援については、患者の幅広いニーズに対応するため、地域の行政機関や民間事業所と連携や役割分担を進める』としているが、もっと具体的に示すべき。</p>	<p>病院事業改革推進プランは、各病院の現状・課題、機能に応じて今後の進むべき方向性や取り組む事項を大項目で示しているものであり、具体的な取組事項については、プランを推進するために各病院と協議の上、毎年度策定している「取組方針」に沿って進行管理しています。そのため、プランの記載内容は素案のままとします。</p>	D
<p>緑ヶ丘病院の『「十勝圏域・道東地域で唯一の専門外来・専用病床を有している児童・思春期精神科の機能を担う」』ことについて、「適切な医療を提供することができるよう努める」と語気を弱めています。が、「唯一の専門」としてあるならば、より強く機能の強化をしていくべきではないでしょうか。具体的には、若年層の摂食障害や不登校の児童・学生なども取り組むべき課題だと思います。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p>	C
<p>児童・思春期精神科医療においては、より専門性ある医師を確保するため、大学との連携を図ることも重要と思います。</p>	<p>道立病院の医療機能を維持するため、医師の安定的な確保に向けて、医育大学に対する要請などに取り組んできており、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p>	C
<p>緑ヶ丘病院における地域との連携については、現場任せにするのではなく、行政を含めた横の連携が必要不可欠。保健所、児童相談所、各自治体の地域包括支援センター、学校児童センターそして他の関係する医療機関など、様々な機関と連携を図り、退院後の患者や若年層を支援できる体制の構築に向けたプランが必要です。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p>道立病院におきましては、各関係機関との連携の取組を強化するため、平成29年度に全ての道立病院に地域連携室を設置し院内の機能強化を図ったところであり、以降、必要に応じた専門職種の配置や職員の増員を行っております。</p>	C

IV 医療従事者の確保対策（6件）

意見の概要	意見に対する道立病院局の考え方
<p>地域での医師確保は、全国的に見ても喫緊・共通の課題である。最重要ではあるが、医師を取り巻く環境の整備、すなわち看護師・介護福祉士やその他医療スタッフの充実、遠因での医師労働の軽減や経営の安定化につながるものとする。</p>	<p>医師の負担軽減や業務の効率化に向けて、医療従事者の確保のほか、タスクシフト/シェアの取組を進めており、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p>
<p>医療の関係の事が分からない人でも看護師の仕事は辛い、汚い、きつい、人現関係が嫌だ、危険、セクハラ等の問題があると言われていている。心身への負担が大きい事を考察して職員採用と離職防止の方針を掲げてほしい。十勝地方で医大がないのはおかしい。医師確保が解決できるのであれば帯広に医大設置を考察してほしい。</p>	<p>医療従事者の確保に向けて、医育大学への要請のほか、魅力ある職場づくりに向けて取り組むこととしており、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p>
<p>返済不要の奨学金制度の拡充してほしい。</p>	<p>道立病院局では、学生等に対し、道や市町村の奨学金制度を紹介するなど、人材確保に取り組んでおり、特に、看護師の確保が難しい地域にある江差病院や羽幌病院については特別修学資金制度があり、引き続き、こうした制度の積極的なPRに取り組んでまいります。</p>
<p>「3 今後の取組」では、「地域事情や職種ごとの業務内容に応じた手当等の導入について、他の医療機関の実態等を踏まえ検討」となっていますが、郡部の病院で人材を確保しようと考えれば他の病院の実態に合わせて手当を設定するのでは、最低限の離職防止にはなるかもしれませんが、他の病院との人材確保競争における優位性の獲得には繋がらないのではないのでしょうか。</p>	<p>医療従事者の確保に向けて、地域事情や職種ごとの業務内容に応じた手当等の導入について、他の医療機関の実態等を踏まえ検討を進めることとしており、今後とも離職防止や魅力ある職場づくりに取り組むとともに、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p>
<p>すべての職種において今いる人材を離職させない対策が必要だと思います。そのためにも定数や必要数などに拘らず、どの職種も余裕を持った人員数を確保し、やりがいや自分の目指す目標を見いだせるような職場環境づくりができるようにするべきではないか。定数外で配置すれば研修参加のほか、産休や介護休暇など職員ニーズにも応えられると思います。せっかく考えているキャリアアッププランもギリギリの体制では長続きはしないと思います。予算や収益に見合う体制も理解ができますが、収益や人員確保という点ではある程度の先行投資は必要だと考えます。</p>	<p>医師等医療従事者の負担軽減や離職防止に向けて、医療従事者の確保のほか、タスクシフト/シェアの取組などを進めており、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p>
<p>新型コロナウイルス感染症対策について、人員や感染対策は具体的にどのように行うか考えているのでしょうか。国としても、感染管理認定看護師の育成や配置について強化する方針が出されているため、最低限、一時的にでも感染管理認定看護師の専従配置をする、感染対策強化のためのスタッフ配置をすることはできないのでしょうか。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症などによる院内感染の防止に向け、感染管理認定看護師など感染管理に精通する職員の配置や感染防止に向けた研修の開催など、感染防止体制の強化に努めてまいります。</p>

V 再編・ネットワーク化（5件）

意見の概要	意見に対する道立病院局の考え方
<p>現状の北海道医療の課題については高齢化、過疎、医療資源の不均衡などがあると思います。解決には再編とネットワーク化が不可欠。特に医療過疎地域の道立病院は、おそらく装置や建物の老朽化、医療スタッフの高齢化などもあり、経営が厳しいだろうと考える。中途半端に残すよりも、中小規模医療機関は閉鎖し医療資源の集約を図るべき。ただ、当然抵抗はあるでしょうし、住民の皆様の健康を害さないような工夫が求められるため、「ドラッグストアの活用」、「タブレットの配布とオンライン診療アプリケーションの活用」、「クラウドを利用した電子カルテ作成の効率化」により、症状がほとんど変わらない慢性疾患の方がご自宅近くで診療を完了できたら、お互いに良いのではないかと。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>再編・ネットワーク化の更なる拡充を求める。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>地方からその都度受診するのは難しい患者も多くいることを考慮して、リモート受診を取り入れるべきであり、医療従事者と患者の負担を減らすことを実施すべき。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p>道立病院におけるオンライン診療の状況は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止や患者が安心して医療を受けられる観点から、電話や情報通信機器を用いた診療や処方箋の取扱いに関する国の通知に基づき、慢性疾患等を有する定期受診患者に対して、電話による診療を行っております。</p> <p>今後も、オンライン診療に関する国の動向を注視しながら、感染防止と患者の利便性の確保を図り、安心して医療を受けることができるよう、取り組んでいく考えです。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>再編・ネットワーク化に当たっては、現在の不十分な医療提供体制の下、患者数から機械的に病床数を削減しないしてほしい。住民の要求に基づいたネットワークを強化してほしい。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>コドモックルは紹介制で診療運営がされており、p35の当該部分の記載は現状そのもの記載であり、あえて「再編・ネットワーク化」の記載として必要でしょうか。総務省がこれまでに示したガイドラインにおける「再編・ネットワーク化」で求められていた検討要素からはあえて記載する必要性が希薄な印象を受けます。</p>	<p>本プランでは、コドモックルが道内全域をカバーしている現状を踏まえ、「道内の他の医療機関からの患者の受入など医療連携に貢献」していることから、記載しています。</p> <p style="text-align: right;">D</p>

VI 経営の効率化（3件）

意見の概要	意見に対する道立病院局の考え方
<p>費用の縮減に関して、人件費の削減に向けて進むことを強く懸念する。</p>	<p>経営の効率化に向け、収益の確保とともに、後発医薬品の採用拡大等、費用の縮減に取り組んでおり、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p>
<p>診療報酬はマイナス改定が続いてきました。道立病院及び北海道として、国に対して、患者の負担増にならない方法で診療報酬の大幅アップと公的医療機関に対する財政補填の増額を求めています。</p>	<p>自治体病院等の経営改善に向けて、診療報酬の適切な見直しや財政措置の更なる充実について、国に要望しています。</p>
<p>「4 経営改善に向けた取組」の「②病院が有する機能活用」において、「連携活動を通じて、道立病院の医療従事者の有効活用に努めます」については、道立病院の医療従事者が他の医療機関において診療を行い、直接的に道立病院が収入を得るという意味でしょうか。地域に不足する職種が他の医療機関に支援に行くことは道立病院単体では実質的には職員一人当たりの診療収入の低下を招かないでしょうか。</p>	<p>ご指摘の文言については、地域連携の中で、例えば管理栄養士や理学療法士などの医療従事者が多職種連携の協議や地元自治体の保健活動に積極的に参加することにより、新規患者の掘り起こしにつなげ、収益の確保を期待するものです。</p>

VII 一般会計負担金の算定の考え方（2件）

意見の概要	意見に対する道立病院局の考え方
<p>地域医療を守る道立病院、およびそこで働く職員のみなさんの健康と生活を守るため、一般会計負担金は繰り出してください。病院の経営困難な要因は、国の低い診療報酬、改定の度に増える患者負担増（受診抑制）などがあります。国が改善するまでは、北海道が負担することに賛成です。</p>	<p>道立病院が今後とも、地域に必要な医療を安定的に提供していくためには、救急医療や精神医療、高度医療などに要する経費について、国や道が定める繰出基準に基づく負担金を一般会計から適切に繰り入れることが必要不可欠と考えており、病院運営に必要な一般会計負担金の確保に努めてまいります。</p>
<p>「Ⅲ 道立病院が果たすべき役割・機能」で示されているとおり、「民間医療機関が参入しにくい」「不採算」といった要素を踏まえ、十分な道基準の繰入額の設定を期待します。</p>	<p>道立病院が今後とも、地域に必要な医療を安定的に提供していくためには、救急医療や精神医療、高度医療などに要する経費について、国や道が定める繰出基準に基づく負担金を一般会計から適切に繰り入れることが必要不可欠と考えており、病院運営に必要な一般会計負担金の確保に努めてまいります。</p>

VIII 収支計画及び数値目標（1件）

意見の概要	意見に対する道立病院局の考え方
<p>総務省のガイドラインが現時点で示されていない中であることや、素案内では計画期間内での検討事項とされている事項も多いため、過度に経済性を追求することなく、現実的な視点をもった収支計画を期待します。</p>	<p>人口減少の進行に加え、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、引き続き厳しい病院運営が見込まれることから、収支見通しの精査や病院経営に関する経営指標や数値目標の設定の在り方などについて検討を進めます。</p>

その他（4件）

意見の概要	意見に対する道立病院局の考え方
<p>赤字や不採算を名目に、大切な医療や介護を担う人材を育てる道立衛生学院を道行政が手放したことにより、看護師・助産師など必要な人材の確保・育成が北海道内で抜本的に改善の方向に向かわないことはしっかり認識すべきです。</p>	<p>看護師確保に向けて、道内外の養成校へのPR活動やインターンシップの実施をはじめ、SNS等を活用した募集活動など、様々な取組を積極的に進めており、いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p>
<p>社会保障最後の砦は病院ですので、この病院事業改革では医療介護福祉の連携とコロナ渦で急増している女性の自殺者を予防できるような対策も是非ご検討頂けたらと思いました(SDGs推進)。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の病院運営の参考とさせていただきます。</p>
<p>コロナ禍の中でわかったのは、地域の大小の医療機関が相互に補完しあって、地域医療が成り立っているということです。どこもなくしてはならない存在だということです。どうか、このプランで、病床、診療科、人員配置数の縮小をするのはやめてほしいと強く望みます。 今後も新型のウイルス発生は続くと考えられていますので、国の言うままではなく、北海道は北海道のゆとりある医療体制の確保を求めます。</p>	<p>道立病院が、地域において求められる役割や機能を将来にわたって発揮していくため、限られた医療資源を有効に活用しながら、地域の医療機関との機能分担や連携を図ることが重要と考えており、今後とも地域医療構想調整会議の場などを活用し、地元自治体や医療機関等と協議を進め、地域全体で必要な医療提供体制を確保してまいります。</p>
<p>今後の方向性については、いち看護師でも多くの考えを持っています。まずは、この5年間の現状を評価し直し、今後の方向性については忖度のない現場スタッフの意見を聞いて、多くのスタッフの意見の中からより良い具体性のあるプランとなるように再考することを切望します。</p>	<p>道立病院事業の推進に当たっては、北海道病院事業条例に基づき、医療や病院経営、企業経営に関する有識者の方々に構成する「北海道病院事業推進委員会」を設置し、幅広い見地から客観的な点検と評価を受けながら、プランに掲げた目標達成に向け、経営改善に取り組んでいます。また、次期プランの策定に当たっては、この委員会に設置した「改革推進プラン検討部会」のご意見を伺うとともに、各病院の院長等の参画も得ながら素案を取りまとめております。</p>

※「意見に対する道立病院局の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

区分	意見等の反映状況
A	意見を受けて素案を修正したもの
B	素案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	素案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	素案に取り入れなかったもの
E	案の内容についての質問等

【問い合わせ先】
道立病院局病院経営課経営企画係
電話 011-204-5232
(内線25-863)